

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	149260175	事業の開始年月日	令和2年9月1日
		指定年月日	令和2年8月28日
法人名	一般社団法人 東林間 輝		
事業所名	グループホーム 東林間 輝		
所在地	(〒252-0311) 神奈川県相模原市南区東林間5-6-21		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年9月30日	評価結果 市町村受理日	令和7年5月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念
①あなたの笑顔が見たいから
②真心と安心のある介護をめざして
③地域に根ざす家族愛
1. 理念に沿ったサービスを提供するようにしている
2. 入居者様・ご家族様の意向に寄り添い出来る限り最期まで輝で過ごしていただけるような関わりを心がけている
3. 入居前の習慣を失わずその人らしさが活かされる生活を目指している
4. 持っている力を最大限に引き出す関わり方をしている
5. 介護と医療の連携ができています
6. ご家族様がいつでも面会ができる雰囲気作りをしている
7. 旬の食材を使った献立、手作りで家庭の味を提供している
8. 職員が元気で明るく働ける環境づくり

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橘1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年11月6日	評価機関 評価決定日	令和6年12月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

小田急江ノ島線「東林間」駅から徒歩約3分のところに立地している3階建ての独立した建物です。1階は小規模多機能型居宅介護事業所で2階、3階がグループホームとなっています。
<優れている点> 駅から近い立地ですが、手作り感と温かみのある静寂な佇まいの事業所です。独立性が確保されています。入口に食事の写真を添えた木製の案内板があり、訪れる人の目をひきます。事業所内の通路やリビングなど共有スペースに利用者の作品や写真が飾られ、家族や見学者に好評です。大手の食品スーパーマーケットがすぐ近くにあり、毎日の食材の買い物に利用者も一緒に行くことがあります。商店振興会の会員としての活動をしています。屋上を使用した「阿波踊り」のイベントでは商店会や地域の人達の参加があり、楽しみな行事となっています。職員の個人面談や目標管理をしています。メンタルや業務関連の相談に乗り、目標達成の支援でやる気を引き出しています。
<工夫点> 自家発電機を屋上に設置し、非常時の安心に繋がっています。屋上を使って開催したイベントで、地域の人と利用者が一体となって交流しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム 東林間 輝
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を各ユニットに大きく掲示している 職員は業務で迷いがあった時はいつでも理念に自分の行動に照らし合わせながら従事している 職員全員で理念を見直をしたが「誰が見てもわかりやすい」などの意見が多かったため当面変更しない予定 ご利用者様からの評価も高い	事業所独自の理念を全職員で検討した際に、現状の理念が明快でわかりやすいということになり継続しています。業務を進める中で判断に迷いが出た時、この理念に立ち返っています。職員は行動指針として、常に意識の中に持ち合わせています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	東林間自治会、東林間商店復興会に加入している 地域の方に1Fを開放しカラオケを行った 今年も商店街のゴミ拾いに参加している 地元の有名な阿波踊りを連盟の方に協力してもらい 屋上で踊りを披露してくださった 近所の方や家族も見に来られ一緒に楽しむことができた	地域の自治会、商店振興会に加入しています。事業所の屋上の広いスペースを活用して地域イベントを行っています。地域に出て行ったり招いたりして積極的な交流を図っています。地域で実施しているゴミ拾いには利用者も一緒に参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年は、社会福祉協議会主催のグループホームの見学会があった その時に認知症の方に対する支援について説明を行った また今後も機会があれば地域の方々に認知症の方の理解を深めていけるようにしていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回のペースで運営推進会議を開催している 参加者は、地域包括担当者、自治会長、老人会会長、民生委員、ご家族代表など7名程度 入居者の状況報告や行事を行った時のエピソードをご披露している 参加者からは地域についての困りごとなどの話しが出たりした 災害時は、発電機や井戸水があるので協力をしたい お互いに支え合うことにしている	運営推進会議は家族、地域の人を始め、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て、隔月で実施しています。事業所で実施した季節に合わせたイベントの報告、入退居状況、防災訓練や感染症対策などを議題にしています。写真を添えて暮らしをわかりやすく紹介しています。	認知症ケアに関するプロとして地域還元を念頭に、これまで積み上げてきた認知症理解につながる話、トピックを織り交ぜて伝え、地域の社会資源としての役割が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険制度に係る内容は相模原市福祉基盤課や介護保険課を窓口にして相談や申請を行っている また生活保護受給者枠を設けているので福祉事務所(南生活支援課)の担当者とも連絡・相談など連携を図っている 担当者には、状態の変化など報告している	地域包括支援センターが近隣にあり、認知症関連の連携を推進しています。認知症の見当識障害による行方不明者の対応などのSOS訓練に参加しています。また、認知症対応などで困った人の「駆け込み寺」として行政との連携を進めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会4回、一般研修を年に2回定期的に行って理解を深めている 身体拘束をしないケアを努めている 一般的な声掛けとの違いがわかりづらいこともあり、現在はスピーチロックに対する問題意識が高まっているように感じている 長時間の点滴が必要な方が動き回り針を抜かないように見守り、付き添いをご家族に協力していただいたこともある	普段の何気ない会話やケアの流れの中で「ちょっと待ってください」という言葉が利用者に与える心理的な重みについて、研修を通して考える機会を持っています。医療的ケアが必要な利用者について、家族に協力してもらい、点滴中、長時間付き添いをしてもらったことがあります。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会4回、一般研修を年に2回定期的に行って理解を深めている 報・連・相を大切にし虐待を疑われることのないようにしている 身だしなみ(食べこぼしのある服、髭剃り)も毎日整えるよう注意喚起している 虐待を発見したら報告義務があること、通報窓口の周知も研修の中でも行っている 自己点検シートを活用し意識向上も図っている	身体拘束適正化委員会と併せて虐待防止委員会の会合をもち、それぞれの記録を別途まとめています。虐待防止については「自己点検シート」に合わせて各自振り返ることで自覚を促しています。職員の8割以上が参加しているフロア会議で周知徹底しています。夜勤入り、明けの職員や事情で参加できなかった人には回覧し周知しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用したいご家族様の依頼があったので主治医を含め関係者と話し合った 申請書を提出するにあたり必要な書類に記入するなど支援した		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族に対して納得していただけるよう十分な説明を行い契約をしている 今回、契約書の内容を再点検をして追記をしている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族あての手紙・メール・電話でのやり取りをして意見交換の場を設けている 今年は家族会を再開する予定でいたがスペースが狭く残念ながらできなかった 意見の反映ができるよう担当者会議を開催している	入居時や介護度の変更時、退院後のケアプランの作成前などには、家族の参加を得て、サービス担当者会議を開き、事業所での暮らしや健康状態のことで意見交換をしています。また、家族会や面会時に家族の意見を聞き、ケアプランや暮らしに反映しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	総務部長や管理者はリーダー会議・フロア会議・個人面談などの他に表情や元気がない職員には声をかけるなど話しやすい雰囲気を作っている 介護業務や職員の意見・提案を聞くようにしている 人間関係の話が多い、気が合わない、言い方がきついなどの相談が多い傾聴、受容しつつチームで仕事をしていること、コミュニケーションの重要性を伝えている	総務部長は定期的個人面談以外にも、細かく職員の表情観察や声かけをし、気軽に話ができる雰囲気にして意見を聞いています。管理者はコミュニケーションの重要性を伝え、細かく声かけすることで自分を振り返り、対応できるように計らっています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回の個人面談を実施 状況に合わせて随時面談を行い環境整備に取り組んでいる また希望休・有給休暇に関しては全職員が取得できる環境になっている 給与においても頑張りを評価・説明している パートさん含め全員に賞与を渡している また年に1回お誕生日月には祝い金をプレゼントしている	春と秋に個人面談を実施し、日頃の業務の他、本人の体調やプライベートの相談にも対応しています。個人目標については短期・長期に区分して自己評価と管理者評価を実施し、賞与などに反映しています。誕生日プレゼントが全職員にあり、笑顔とやる気に繋げています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常勤・非常勤職員にも外部研修を受講できるようにオンライン(ZOOM)などでも積極的に参加し人材育成に努めているが人員配置が難しく受けられないときもあった力量に似合った研修を選んでいる 参加した職員には記録や会議の場で報告を行い知識の共有を図っている また、初任者研修など資格取得がしやすいようキャリアアップ制度も利用し取り組んでいる	キャリアアップ制度を活用し、6～7人がエントリーしています。やる気が向上し、改めてケアについて見直すことができ、結果を利用者にフィードバックしています。オンライン研修に参加し、資料回覧で研修の報告をしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市のグループホーム連絡会に参加し情報交換と質の向上に努めている市の実地指導の内容や入居者の問い合わせの照会など情報交換をしている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員が事前に訪問し、本人の意向を確認し、要望に沿った介護に努めている サービスを利用開始になるまでは何度かご自宅へお話を伺いに訪問している 経過とともに改善すべきところは改善し希望に沿ったサービスに努め本人が安心して過ごせるような生活環境を整えるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談の際に家族の意向を確認し要望に沿った会合に努めている またできることできないこともお伝えし誤解が生じないように説明をしている そういう中で理解し信頼が深まっていると感じている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問で得た情報を生かし、介護サービスに反映させるだけでなくインフォーマルサービス等の確認も行っている 経過とともに改善すべき点は改善している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の過ごしてきた環境をできる限り維持できるサービスに努めている 男性・女性に関係なく持っている力を発揮できるよう声掛け見守りをするようにしている 達成感や満足感をもってもらうことで本人だけではなく職員もやりがいを感じることができる 自立支援も意識している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様が面会に来られた際に普段の楽しいエピソードなどをお伝えしている また家族様との会話でも本人様の気持ちを代弁をして一緒にケアを考えていただくこともある 出来るだけ家族様が安心して帰られるようにしている 遠方の親戚からの電話や連絡にも職員が介入している		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時には体温チェックとアルコールでの消毒をしていただく、外出は本人や家族の意向を尊重し人混みを避けて外出等もしていただいている 友人の訪問時は、お邪魔にならない程度に介入し笑顔で接するようにしている	利用者共通の思い出の場所として、相模大野公園に車で行ったり、行きつけのスーパーマーケットで支払いの電子化に驚く表情が見られます。昔からのテニス仲間が訪ねてくるなど、これまでに培った交友継続が楽しみの一つになっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	要介護度の違う入居者様が各々孤立しないように席の工夫などをしている また、見下したものの言い方をされないように職員が介入して入居者様同士の関わり合いを増やす機会を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も家族から本人のみならず知人や親戚の事で相談・報告のご連絡がある 親戚の方を当方に入居させたい相談があった 空室がでたタイミングでご入居となった		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中からその方の思いや希望をくみ取るようにしている 状態の変化に気づきアセスメントやモニタリングをしてケアプランの見直しをしている 職員・家族との情報を共有し職員本位のものとならないように気をつけている 職員は連絡帳や業務日報を見てケアの変更など把握する様にしている	利用者の言動には職員による修正を加えず、本人本位とありのままを尊重することが重要と心がけ、対応しています。その人らしさとその人のペースを大事にすることで思いが言動に現れます。1対1の入浴介助での会話で心の内を察し、思いや意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時には家族・担当ケアマネジャーからも情報をいただいている 暮らしの希望、意向を把握し、職員は情報の共有をして生活リズムが変わらないように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェック（血圧・体温・SP02）を行っている 1日の過ごし方など、朝・夕に申し送りを行い現状の把握に努めている また、表情や言動も見ながら1日の過ごし方など考え対応している 職員間でも心身の状況の共有をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護職員の思い込みにならないようにフロア会議・ショートカンファで話し合っている 家族・医療関係者の意見を反映させた介護計画を作成し同意・署名をいただいている その方の状況に合わせてケアのあり方を検討している	ケアプランは、長期・短期目標を利用者の身体状況に合わせて期間を変え、家族の要望や医師の指導、職員の意見などをまとめてケアマネジャーが作成しています。ケアプランに基づいて支援した結果、車いすから歩行器で歩けるようになった利用者もいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の様子は個別の記録をしており、PDCAなどヒントがある時にアンダーラインを引いている 入居者様の状態によって記録用紙を一時的に変えて「見える化」にして情報共有しケアの見直しを実践している 家族に個別記録の開示をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の希望で病院ではなく輝でできるだけ長く過ごさせてあげたいとの希望が多い 輝や介護者ができることできないことを説明した上で、家族・医療職そして介護と連携をして看取りができています 家族からは面会時間の制限がなく宿泊もでき付き添うことが出来て良かったと感謝された		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源をもう少し把握する必要がある 公民館や地域で行っている催し物会場に参加したい 昔得意としていた刺繍や書道の展示会など見に行けたら良いと思う また、ボランティアも入れて楽しめる時間を増やしたい		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	つい最近、協力医療機関を増やした 立ち上げからお世話になっている主治医が連携が取れやすく病床もある総合病院を招会契約ができた 中央林間なのでアクセスもよい主治医と訪問看護ステーションとは24時間の医療連携をとっているため家族・職員共に安心ができています 他の病院を受診をする必要が或る時は紹介状を準備して下さったりfaxを送ってくれている 主治医は状況によっては、家族に連絡や説明をしてくれている	月2回、神経内科医の訪問診療を行っています。訪問歯科は利用者の必要に応じて診察しています。夜間は看護師と主治医が電話でのオンコール対応をしており、可能なら主治医が直接往診することもあります。皮膚科・整形外科・眼科・耳鼻科などの専門外来は、基本家族対応で通院しますが、難しい場合には職員対応で行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24H対応の訪問看護・クリニックと提携をしている 訪問看護師には関わりの中での精神的・身体的等の変った点などの気づき、薬の変更等を含め報告相談をしている 医療と介護の連携が取れる様に医療連絡ノートを記入し情報を共有している LINEアプリでも随時連絡をとっている 看護と介護が連携して家族様に安心していただき看取りもできた		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折や原因不明熱で入院が必要となった時は日常の様子がわかる職員が家族と一緒に付き添いをしている 病院関係者から情報を収集し輝の主治医にも報告している できるだけ輝での生活に戻れるように支援している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について意向を伺っている 看取りの方針に基づいてご家族に説明し、同意・署名をしていただいている 状態に変化がある度に家族の意向に変更がないか伺い、輝・家族・医療職のチームで情報を共有し支援している	重度化や終末期の方針は、状況が変化することにより医師・看護師・家族・職員で話し合っています。家族の意向を尊重し、最期の数日を利用者の居室に泊って過ごし、看取った例もあります。職員は研修などで実例をもとに学び、より家族や本人に寄り添った支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	転倒事故や急変時に行わなければならない事や救急車要請時の報告の仕方・持ち物など、いざという時に対応できるように確認している 連絡先などはわかりやすいように電話のある壁に貼ってある		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年2回訓練を実施している 地元の消防署の協力ももらい避難訓練・消火訓練を行う 訓練では人手の少ない夜間帯での想定訓練の実施した 他には備蓄管理(消費期限)・保管の見直しや停電時に備え発電機も購入した 災害時には事業所内の井戸水を地域でも使用してもらうことを伝えている BCPを作成し研修に向けて取り組んでいる	避難訓練は、地元消防署の協力で消防車に来てもらい、消防団員の指導の下、より実際の災害時に近い状態で行っています。発電機を屋上に設置し、数日分の電力を確保しています。備蓄品は食品を多めに備蓄し、隣接するスーパーマーケットに水の提供を依頼し連携しています。有事に備え、近日中にBCPの研修を行う予定です。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マニュアルを利用して常に研修している 認知症という病気の理解を深め否定をせずその方の思いに寄り添う介護ができるよう努力している 身だしなみも気をつけ、お化粧品なども継続して支援している 「その人らしさ」を意識している お手洗いの声掛けの大きさ、タイミングを配慮している	職員は入職時研修で利用者を人生の先輩として尊重する事を学び、実践しています。 トイレ誘導の際は小声で声かけし、耳の遠い利用者には、ジェスチャーで誘導しています。入浴は同性介助を基本とし、同性介助が難しい場合は必ず本人の了承を得ています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の思いだけではなく基本はご意向を伺うようにしているため入浴日も決めていない「はい、いいえ」で答えられるような簡単な聞き方をしている 重度化してもその方の思いを大切にするため言葉はしっかりと受け止めて記録に残し共有している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合や業務を優先しないように入居者様本位で対応するように心がけている 共同生活の場でもあるので他の方とのバランスも見ながら調整し対応している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理髪は2か月に1回行っている カラーリングや希望のヘアカットにしている 季節に合ったその人らしい着こなしになるよう、お化粧品(アイブロウ・口紅)ができるように関わっている			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや片づけは入居者様とおしゃべりをしながら一緒に行っている 季節感のある献立を提供している 残すことの多い献立については見直し皆の好みに合わせている 行事の際は握り寿司を提供、生ものが苦手の方には炙りやシラスなど代替えで対応している 屋上も開放し手作りのおにぎり(皆で握って)を食べるなど「食べる楽しみ」を大切にしている	食事は1階で食事部が作り、各フロアで炊飯や味噌汁、食事の温めを行い提供しています。盛り付けや配膳は利用者と一緒にしています。利用者が苦手な食品は、栄養的に問題がなければ出さないよう配慮しています。昼食前10分間、誤嚥を防ぐための口腔体操を行っています。毎週土曜は寿司の日と決めており、曜日感覚を身に付ける事にも役立てています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量のチェック表を活用している 体重の増減・体調の変化に合わせて量や食事の内容も変えて対応している たんぱく質が足りていない方には補助食品を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後は必ず口腔ケアの声掛けをし、一人では難しい方は介助し実施している また訪問歯科の利用もあり、助言を頂きながらケアに反映している 誤嚥性肺炎にならないよう十分に気をつけている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りトイレでの排泄をしていただくよう声掛け誘導している 排泄チェック表を確認しながら排泄リズムの把握に努めた結果、リハビリパンツから綿のパンツに変更することが出来た 声掛けや誘導の際はプライバシーに配慮している 夜間も安眠妨害にならない程度に声掛けしている	職員は排泄チェックリストに自立・声かけなど排泄状況も記録し、情報共有して個々に合わせた支援を行っています。便器背面にクッションを置き、利用者が腰を打って怪我をしないよう配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化の良い食事の提供、牛乳・ヨーグルト・カルピスなどの提供、毎日のラジオ体操や嚥下体操、廊下歩行運動など一緒に行ったり、時には腹部のマッサージなどをし便秘解消に努めている また申し送りを行い排便コントロール(頓用薬)もしている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日は決めておらず入居者様の状態や気分に合わせて対応している また同性介助を基本とし、遅番・夜勤者対応で夜間に入浴していただくこともある シャンプーハットを使用している方もいる 菖蒲湯や冬至の際はご近所から頂いた柚子を入れ季節を感じて頂いている	入浴は曜日が決まっていません。職員は入浴管理表で状況を把握し、適切なタイミングで入浴を行っています。浴室暖房でヒートショック対策をしています。井戸水を沸かしているため、肌に優しい湯です。毎回湯を張り替え、清潔に入浴できています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	騒音や照明など環境には十分気を配っている 就寝時間も個別で対応している 座っている時間が長くないよう適宜短時間の休息をとっていただいている 眠れない方にはホットミルクを提供しフロアで過ごしていただくなど安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬のないようにダブルチェックをしている スタッフは大体だが誰が何の薬を服用しているのか把握するようにしている 薬に変更がある時には状態の変化にも気をつけ、家族・医療職にも情報の共有を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	主婦をしていた方には家事仕事を出来るだけ一緒に行うようにしている また歌や昔の職業・生まれ育った場所などに関連した昔話など(回想法)をして笑顔がみられている 麻雀や手芸など1F小規模の職員に協力してもらっている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気分転換で散歩や屋上に出て日光浴をしている 家族との外出(自宅・外食)を支援している	日常的に近所の公園へ散歩しています。外出が難しい時は、屋上での日光浴・外気浴を行っています。季節ごとに、花見散歩、あやめ鑑賞などに出かけています。利用者家族の自宅で一緒に食事を楽しむ人もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは施設で管理している 以前は職員と一緒に買い物に行き使うことを支援していた お金を持っていないと不安な方には家族から承諾いただき所持していただいている 新札を見ていただいた		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や手紙を書いていただこうとするが出来ずにいる 入電時にはお繋ぎし、職員が会話できるように仲介している また自身の携帯電話の操作がわからない方には使い方をお伝えしている 1日1枚、ご自分の思いを書いていただいている いつか家族に渡したいと思っている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロア内にはご利用者様と一緒にクラフトした作品を飾り、季節を感じていただいている トイレは1日3回の清掃、共有の空間は毎日清掃・消毒・換気に気をつけている 居室で過ごす方は少なく気の合った人同士で話したり、職員と関わったり自由に好きなことをしている	事業所は2階3階にあるため明るく、利用者が過ごしやすい空間となっています。レクリエーションで作成した四季折々の折紙や貼り絵の作品を飾り、鑑賞して楽しんでいます。入口に写真をたくさん掲示して、家族への近況報告と、利用者の回想法に役立っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置、気の合う方が近くにいる食席など配慮している 一人になる時間も必要と思われる方には居室で過ごしていただいたりもしている 居室以外で見守りができてホッとできる場所が作れるといいと思っている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や馴染みの物をお持ちいただいている 中には仏壇や家族写真や絵画などの作品を飾っている方もいます	居室はクローゼット、エアコン、照明、介護用ベッド、カーテンを備え付けています。持ち込みは自由で、仏壇、化粧箱、利用者が昔作成した刺繍絵画や水墨画を飾り、過ごしやすい居室となっています。清掃は職員が毎日行っており、利用者が一緒に行う時もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来る事・わかることを職員が一人ひとり理解し、過剰な介護にならないようにしている 自立支援を意識している また、手すりの設置、トイレは自分で行けるように看板を大きく表記している 亡くなったご主人のお水の交換は毎日職員と一緒に支援している		

事業所名	グループホーム 東林間 輝
ユニット名	3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を各ユニットに大きく掲示している 職員は業務で迷いがあった時はいつでも理念に自分の行動に照らし合わせながら従事している 職員全員で理念を見直をしたが「誰が見てもわかりやすい」などの意見が多かったため当面変更しない予定 ご利用者様からの評価も高い		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	東林間自治会、東林間商店復興会に加入している 地域の方に1Fを開放しカラオケを行った 今年も商店街のゴミ拾いに参加している 地元の有名な阿波踊りを連盟の方に協力してもらい屋上で踊りを披露してくださった 近所の方や家族も見に来られ一緒に楽しむことができた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年は、社会福祉協議会主催のグループホームの見学会があった その時に認知症の方に対する支援について説明を行った また今後も機会があれば地域の方々に認知症の方の理解を深めていけるようにしていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回のペースで運営推進会議を開催している 参加者は、地域包括担当者、自治会長、老人会会長、民生委員、ご家族代表など7名程度 入居者の状況報告や行事を行った時のエピソードをご披露している 参加者からは地域についての困りごとなどの話しが出たりした 災害時は、発電機や井戸水があるので協力をしたい		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険制度に係る内容は相模原市福祉基盤課や介護保険課を窓口にして相談や申請を行っている また生活保護受給者枠を設けているので福祉事務所(南生活支援課)の担当者とも連絡・相談など連携を図っている 担当者には、状態の変化など報告している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会4回、一般研修を年に2回定期的に行って理解を深めている 身体拘束をしないケアを努めている 一般的な声掛けとの違いがわかりづらいこともあり、現在はスピーチロックに対する問題意識が高まっているように感じている 長時間の点滴が必要な方が動き回り針を抜かないように見守り、付き添いをご家族に協力していただいたこともある		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会4回、一般研修を年に2回定期的に行って理解を深めている 報・連・相を大切にし虐待を疑われることのないようにしている 身だしなみ(食べこぼしのある服、髭剃り)も毎日整えるよう注意喚起している 虐待を発見したら報告義務があること、通報窓口の周知も研修の中でも行っている 自己点検シートを活用し意識向上も図っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用したいご家族様の依頼があったので主治医を含め関係者と話し合った 申請書を提出するにあたり必要な書類に記入するなど支援した		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族に対して納得していただけるよう十分な説明を行い契約をしている 今回、契約書の内容を再点検をして追記をしている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族あての手紙・メール・電話でのやり取りをして意見交換の場を設けている 今年は家族会を再開する予定でいたがスペースが狭く残念ながらできなかった 意見の反映ができるよう担当者会議を開催している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	総務部長や管理者はリーダー会議・フロア会議・個人面談などの他に表情や元気がない職員には声をかけるなど話しやすい雰囲気を作っている 介護業務や職員の意見・提案を聞くようにしている 人間関係の話が多い、気が合わない、言い方がきついなどの相談が多い傾聴、受容しつつチームで仕事をしていること、コミュニケーションの重要性を伝えている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回の個人面談を実施 状況に合わせて随時面談を行い環境整備に取り組んでいる また希望休・有給休暇に関しては全職員が取得できる環境になっている 給与においても頑張りを評価・説明している パートさん含め全員に賞与を渡している また年に1回お誕生日月には祝い金をプレゼントしている		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常勤・非常勤職員にも外部研修を受講できるようにオンライン(ZOOM)などでも積極的に参加し人材育成に努めているが人員配置が難しく受けられないときもあった力量に似合った研修を選んでいる 参加した職員には記録や会議の場で報告を行い知識の共有を図っている また、初任者研修など資格取得がしやすいようキャリアアップ制度も利用し取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市のグループホーム連絡会に参加し情報交換と質の向上に努めている市の実地指導の内容や入居者の問い合わせの照会など情報交換をしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員が事前に訪問し、本人の意向を確認し、要望に沿った介護に努めている サービスを利用開始になるまでは何度かご自宅へお話を伺いに訪問している 経過とともに改善すべきところは改善し希望に沿ったサービスに努め本人が安心して過ごせるような生活環境を整えるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談の際に家族の意向を確認し要望に沿った会合に努めている またできることできないこともお伝えし誤解が生じないように説明をしている そういう中で理解し信頼が深まっていると感じている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問で得た情報を生かし、介護サービスに反映させるだけでなくインフォーマルサービス等の確認も行っている 経過とともに改善すべき点は改善している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の過ごしてきた環境をできる限り維持できるサービスに努めている 男性・女性に関係なく持っている力を発揮できるよう声掛け見守りをするようにしている 達成感や満足感をもってもらうことで本人だけではなく職員もやりがいを感じることができる 自立支援も意識している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様が面会に来られた際に普段の楽しいエピソードなどをお伝えしている また家族様との会話でも本人様の気持ちを代弁をして一緒にケアを考えていただくこともある 出来るだけ家族様が安心して帰られるようにしている 遠方の親戚からの電話や連絡にも職員が介入している 家族との過ごす時間を大切にしている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時には体温チェックとアルコールでの消毒をさせていただき、外出は本人や家族の意向を尊重し人混みを避けて外出等もしていただいている 友人の訪問時は、お邪魔にならない程度に介入し笑顔で接するようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	要介護度の違う入居者様が各々孤立しないように席の工夫などをしている また、見下したものの言い方をされないように職員が介入して入居者様同士の関わり合いを増やす機会を作っている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も家族から本人のみならず知人や親戚の事で相談・報告のご連絡がある 親戚の方を当方に入居させたい相談があった 空室がでたタイミングでご入居となった		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中からその方の思いや希望をくみ取るようにしている 状態の変化に気づきアセスメントやモニタリングをしてケアプランの見直しをしている 職員・家族との情報を共有し職員本位のものにならないように気をつけている 職員は連絡帳や業務日報を見てケアの変更など把握する様にしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時には家族・担当ケアマネジャーからも情報をいただいている 暮らしの希望、意向を把握し、職員は情報の共有をして生活リズムが変わらないように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェック（血圧・体温・SP02）を行っている 1日の過ごし方など、朝・夕に申し送りを行い現状の把握に努めている また、表情や言動も見ながら1日の過ごし方など考え対応している 職員間でも心身の状況の共有をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護職員の思い込みにならないようにフロア会議・ショートカンファで話し合っている 家族・医療関係者の意見を反映させた介護計画を作成し同意・署名をいただいている その方の状況に合わせてケアのあり方を検討している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の様子は個別の記録をしており、PDCAなどヒントがある時にアンダーラインを引いている 入居者様の状態によって記録用紙を一時的に変えて「見える化」にして情報共有しケアの見直しを実践している 家族に個別記録の開示をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の希望で病院ではなく輝でできるだけ長く過ごさせてあげたいとの希望が多い 輝や介護者ができることを説明した上で、家族・医療職そして介護と連携をして看取りができています 家族からは面会時間の制限がなく宿泊もでき付き添うことが出来て良かったと感謝された		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源をもう少し把握する必要がある 公民館や地域で行っている催し物会場に参加したい 昔得意としていた刺繍や書道の展示会など見に行けたら良いと思う また、ボランティアも入れて楽しめる時間を増やしたい		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	つい最近、協力医療機関を増やした 立ち上げからお世話になっている主治医が連携が取れやすく病床もある総合病院を招会契約ができた 中央林間なのでアクセスもよい主治医と訪問看護ステーションとは24時間の医療連携をとっているため家族・職員共に安心ができています 他の病院を受診をする必要が或る時は紹介状を準備して下さったりfaxを送ってくれている 主治医は状況によっては、家族に連絡や説明をしてくれている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24H対応の訪問看護・クリニックと提携をしている 訪問看護師には関わりの中での精神的・身体的等の変った点などの気づき、薬の変更等を含め報告相談をしている 医療と介護の連携が取れる様に医療連絡ノートを記入し情報を共有している LINEアプリでも随時連絡をとっている 看護と介護が連携して家族様に安心していただき看取りもできた		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	骨折や原因不明熱で入院が必要となった時は日常の様子がわかる職員が家族と一緒に付き添いをしている 病院関係者から情報を収集し輝の主治医にも報告している できるだけ輝での生活に戻れるように支援している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について意向を伺っている 看取りの方針に基づいてご家族に説明し、同意・署名をしていただいている 状態に変化がある度に家族の意向に変更がないか伺い、輝・家族・医療職のチームで情報を共有し支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	転倒事故や急変時に行わなければならない事や救急車要請時の報告の仕方・持ち物など、いざという時に対応できるように確認している 連絡先などはわかりやすいように電話のある壁に貼っている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年2回訓練を実施している 地元の消防署の協力ももらい避難訓練・消火訓練を行う 訓練では人手の少ない夜間帯での想定訓練の実施した 他には備蓄管理(消費期限)・保管の見直しや停電時に備え発電機も購入した 災害時には事業所内の井戸水を地域でも使用してもらうことを伝えている BCPを作成し研修に向けて取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マニュアルを利用して常に研修している 認知症という病気の理解を深め否定をせずその方の思いに寄り添う介護ができるよう努力している 身だしなみも気をつけ、お化粧品なども継続して支援している 「その人らしさ」を意識している お手洗いの声掛けの大きさ、タイミングを配慮し行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の思いだけではなく基本はご意向を伺うようにしているため入浴日も決めていない「はい、いいえ」で答えられるような簡単な聞き方をしている 重度化してもその方の思いを大切にするため言葉はしっかりと受け止めて記録に残し共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合や業務を優先しないように入居者様本位で対応するように心がけている 共同生活の場でもあるので他の方とのバランスも見ながら調整し対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理髪は2か月に1回行っている カラーリングや希望のヘアカットにしている 季節に合ったその人らしい着こなしになるよう、お化粧品(アイブロー・口紅)ができるように関わっている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや片づけは入居者様とおしゃべりをしながら一緒に行っている 季節感のある献立を提供している 残すことの多い献立については見直し皆の好みに合わせている 行事の際は握り寿司を提供、生ものが苦手の方には炙りやシラスなど代替えで対応している 屋上も開放し手作りのおにぎり(皆で握って)を食べるなど「食べる楽しみ」を大切にしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量のチェック表を活用している 体重の増減・体調の変化に合わせて量や食事の内容も変えて対応している たんばく質が足りていない方には補助食品を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後は必ず口腔ケアの声掛けをし、一人では難しい方は介助し実施している また訪問歯科の利用もあり、助言を頂きながらケアに反映している 誤嚥性肺炎にならないよう十分に気をつけている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りトイレでの排泄をしていただくよう声掛け誘導している 排泄チェック表を確認しながら排泄リズムの把握に努めた結果、リハビリパンツから綿のパンツに変更することが出来た 声掛けや誘導の際はプライバシーに配慮している 夜間も安眠妨害にならない程度に声掛けしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化の良い食事の提供、牛乳・ヨーグルト・カルピスなどの提供、毎日のラジオ体操や嚥下体操、廊下歩行運動など一緒に行ったり、時には腹部のマッサージなどをして便秘解消に努めている また申し送りを行い排便コントロール(頓用薬)もしている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日は決めておらず入居者様の状態や気分に合わせて対応している また同性介助を基本とし、遅番・夜勤者対応で夜間に入浴していただくこともある シャンプーハットを使用している方もいる 菖蒲湯や冬至の際はご近所から頂いた柚子を入れ季節を感じて頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	騒音や照明など環境には十分気を配っている 就寝時間も個別で対応している 座っている時間が長くないよう適宜短時間の休息をとっていただいている 眠れない方にはホットミルクを提供しフロアで過ごしていただくなど安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬のないようにダブルチェックをしている スタッフは大体だが誰が何の薬を服用しているのか把握するようにしている 薬に変更がある時には状態の変化にも気をつけ、家族・医療職にも情報の共有を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	主婦をしていた方には家事仕事を出来るだけ一緒に行うようにしている また歌や昔の職業・生まれ育った場所などに関連した昔話など(回想法)をして笑顔がみられている 麻雀や手芸など1F小規模の職員に協力してもらっている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気分転換で散歩や屋上に出て日光浴をしている 家族との外出(自宅・外食)を支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは施設で管理している 以前は職員と一緒に買い物に行き使うことを支援していた お金を持っていないと不安な方には家族から承諾いただき所持していただいている 新札を見ていただいた		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や手紙を書いていただこうとすることが出来ずにいる 入電時にはお繋ぎし、職員が会話できるように仲介している また自身の携帯電話の操作がわからない方には使い方を お伝えしている 1日1枚、ご自分の思いを書いていただいている いつか家族に渡したいと思っている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やフロア内にはご利用者様と一緒にクラフトした作品を飾り、季節を感じていただいている トイレは1日3回の清掃、共有の空間は毎日清掃・消毒・換気に気をつけている 居室で過ごす方は少なく気の合った人同士で話をしたり、職員と関わったり自由に好きなことをしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置、気の合う方が近くにいる食席など配慮している 一人になる時間も必要と思われる方には居室で過ごしていただいたりもしている 居室以外で見守りができてホッとできる場所が作れるといいと思っている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や馴染みの物をお持ちいただいている 中には仏壇や家族写真や絵画などの作品を飾っている方もいます		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来る事・わかることを職員が一人ひとり理解し、過剰な介護にならないようにしている 自立支援を意識している また、手すりの設置、トイレは自分で行けるように看板を大きく表記している 亡くなったご主人のお水の交換は毎日職員と一緒に支援している		

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	3	運営推進会議での勉強会の実施	運営推進委員のメンバーに認知症の方の 理解を高め地域貢献を図る	自宅での介護など、どのような議題にする か決める 発表形式・機材の準備も検討する 8月の運営推進会議を予定	12 ヶ月